

第5学年 家庭科 学習構想案

指導者 教諭 村上 千砂子

1 単元構想

単元名	持続可能な社会へ 物やお金の使い方（東京書籍5・6年 P36～43）		
単元の目標	(1) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方、情報の収集・整理について理解することができる。 (2) 消費者として環境に配慮した物の選び方、買い方、使い方を考え工夫することができる。 (3) 自分自身の日常生活を見つめ、課題解決の方法を考え、自分自身の生活に生かそうとする実践的な態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 買物の仕組みや消費者の役割について理解している。 ② 物や金銭の大切さと計画的な使い方、情報の収集・整理について理解している。	① 消費者の行動が環境にどのように影響するのかを考えている。 ② 環境に配慮した物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫している。	① 自分自身の日常生活を見つめ、学習したことを生かして、課題解決の方法を考え、自分自身の生活に生かそうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
持続可能な社会の実現に向けて、消費者として目的に合った物の選び方や買い方、使い方について考え、自分自身の生活に生かそうとする児童。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
地球にやさしく、かしこい消費者を目指そう！		自分自身の生活を振り返り、消費者として、身近な物の選び方、買い方、使い方について様々な視点（品質、安全性、値段、環境への影響など）から考えること。	
指導計画と評価指導（6時間取扱い）			
過程	時間	学習活動・児童の反応	○学習への支援
一	1	1 自分たちの買い物の仕方や物の使い方を振り返り、課題を設定する。 ・店で買い物をするよ。 ・制服は親戚に譲ってもらったよ。	○学習のゴールを示し、学習の見通しを持たせる。 ○ゴミ問題の写真を見せ、消費者の行動が環境に影響を与えていることに気付かせる。
二	2	2 買い物の仕組み（売買契約）について理解し、目的や場面に応じた買い物や支払い方法があることを知る。 ・買う人と売る人の合意があって、買い物が成立するんだね。 ・現金以外でも支払う方法がいろいろあるんだね。	○売買契約について理解するために、役割演技を行う。 ○様々な支払い方法があることを、生活を振り返らせたり、写真を示したりして考えさせる。
		3 買い物のトラブルの例から、買い物で気をつけたいことや、トラブルへの対処法について考える。 ・服やくつは、ちゃんと店で試着して買った方がいいね。 ・ゲームの課金も、家の人と確認してから購入するようにした方がいいな。	○買い物のトラブルは身近にあることに気付かせるため、家の人へのインタビュー結果を共有する。
			態① 知① 知② 態①

三	3	<p>4 自分や家族の日頃の買い物について話し合い、買い物の手順について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物の視点には、値段や品質、機能、安全性、大きさ、分量、環境への影響があるんだね。 ・家の人は、いつも産地や期限を考えて買っているよ。 	<p>○家の人が買い物で気を付けていることを共有し、買い物ではいろいろな視点から商品を選ぶ必要があることに気付かせる。</p>	<p>思① 態①</p>
		<p>5 いろいろな視点から考え、商品を上手に選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の人数や使う目的・場面も考える必要があるんだな。 ・燃料や電気のエネルギーがあまりかかっていない商品や袋に包まれていない商品は、環境にもやさしいね。 	<p>○ICTを活用し、児童が商品を選んだり、選んだわけを示したりできるようにする。</p>	<p>思②</p>
		<p>6 これまでの学習を踏まえて「地球にやさしい、かしこい消費者宣言」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行く時には、エコバッグを持っているか家族で確認したいな。 ・本当に必要なかをよく考えて、買いたいな。 	<p>○これまでの学習での学びを、振り返りシートをもとに振り返って消費者宣言をつくり、共有し合う。</p>	<p>態①</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）					
小学校学習指導要領第5学年及び第6学年 「C消費生活・環境」（1）物や金銭の使い方と買物 ア及びイ （2）環境に配慮した生活 ア及びイ					
教材・題材の価値					
<p>本題材は、持続可能な社会などの視点から、身近な物の選び方及び買い方などの買物の仕組みや物や金銭の大切さや計画的な使い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理に関する知識を身につけることができる題材である。自分自身の消費行動と重ねて考えることで、環境を保全する一人であるという自覚をもち、今後の消費行動につなげることができると考えられる。</p> <p>また、消費生活・環境に関する学習を5年生の早い段階で設定することにより、その後の「家族・家庭生活に関する題材」「食生活と調理に関する題材」「衣生活に関する題材」「住生活に関する題材」での学習に、本題材で身に着けたことを生かしていくことができる。</p>					
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）					
■本単元の学習に関する意識の状況 《学習過程における意識調査》（令和6年9月17日実施）					
	調査項目	とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	学習では、めあてを意識してまとめを考えていますか。	3	2	4	0
2	一人学び（「ためす」のときに）自分の考えをノートやシートに言葉や図、式などで表そうとしていますか。	5	3	1	2
3	ペアやグループ学習などで友達の意見を聞こうとしていますか。	6	2	1	0

4	授業で学んだことから、もっと知りたいと思うことや生活で使ってみたいと思うことがありますか。	4	1	2	2
---	---	---	---	---	---

《本学習に関する事前調査》（令和6年9月17日実施）

	調査項目	とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	家庭科の学習は好きですか。	6	3	1	0
2	買物にはよく行きますか。	4	3	2	0
3	自分で物を買うことはありますか。	2	3	3	1
4	どんな物を買いますか。				
	・課金カード ・クレーンゲーム ・おかし ・ポケカ ・ノート ・野菜 ・果物 ・飲み物				
5	買う時にはどんなことに注目して商品を選んでいきますか。				
	・値段 ・安いもの ・量が多く入っているもの ・おいしそうなもの ・見た目 ・本当に自分がほしいもの				
6	自分が使うものを大切に使っていますか。	5	3	1	0

■考察

買い物に関する事前調査から、児童は買い物によく行き、自分で物を買った経験がある児童が多いことが分かった。買うものについては、ゲームに関するものや文房具、お菓子が多かった。また、買う時に注目する点について、値段や量と答えた児童が多かった一方で、野菜や果物などは見た目を選ぶようにしている、と家の人からポイントを教えてもらっている児童もいた。児童は買い物についてはとても身近に感じており、本学習でも生活経験と重ねて、自分の生活を見つめ直すことができると考えられる。

また、物の扱い方については、日頃の学校生活において、ノートを破ったり、鉛筆を折ったりするなど、大切に扱っていない場面をよく目にする。「新しく買ってもらうから大丈夫です。」と答える児童もいて、壊れたり失くしたりしたら、すぐに新しいものを買えるという認識があるように感じている。そのため、総合的な学習の時間「地球環境プロジェクト」と繋げて、消費者の行動がどのように環境面に影響を及ぼしているのかを考えさせたり、大切なお金をどのように使うのかを考えさせたりする必要がある。

3 指導に当たっての留意点

- 児童が見通しをもって学習に取り組めるようにするために、1時間の流れを示したり、単元計画を掲示し学習のゴールを明確にしたりする。
- 家の人へのインタビューを行うことで、児童がより自分のこととして考えられるようにする。
- 壁面に学習内容を掲示したり、振り返りシートを用意したりすることで、児童の学びを蓄積し、学習を振り返ることができるようにする。
- 学習のゴールについて「地球にやさしい」「かしこい」とは何かを、授業の始めに抑えることで、児童が理解し学習に取り組むことができるようにする。

4 ESD との関連

（1）本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ①多様性・・・物を手に入れる方法は、それぞれの目的や場面に応じて選択してよい。
- ②有限性・・・消費者として物の選び方や使い方に気を付けることが環境を守ることにつながる。
- ③責任性・・・生産者として環境にやさしい商品をつくらうと努めている。消費者として、手に入れた物を大切に長く使ったり、処分に配慮したりしていく。

(2) 本学習で育てたい ESD の資質・能力

① 未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

物を手に入れる時には、値段だけでなく、必要性や使い道、分量、機能面、安全性、環境への影響を十分に吟味しなければならない。

② 批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

物を選ぶ時や買い物をする時に、自分や家族がどのように環境や資源に配慮しているのか、自分自身の生活を見つめ、より環境にやさしい方法を考えていく。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

① 自然環境、生態系の保全を重視する。

豊かな自然環境を未来に残していくために、物の選び方や使い方を考え、できるだけゴミを出さないように生活を改善していかなければならない。

② 文化を尊重する。

日本から生まれた「もったいない」の精神は、世界共通語として広まっていて、私たちも大切にしていける必要がある。

(4) 達成が期待される SDG s

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう

